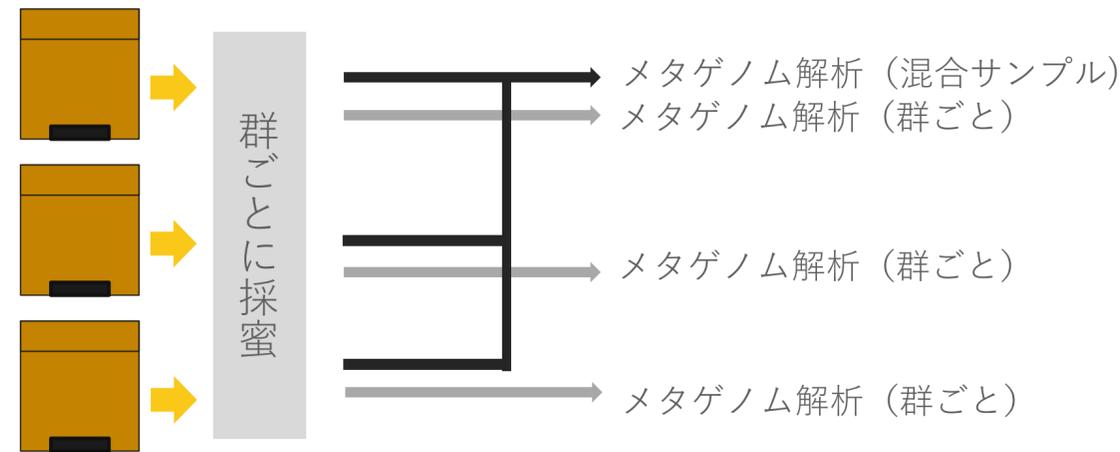
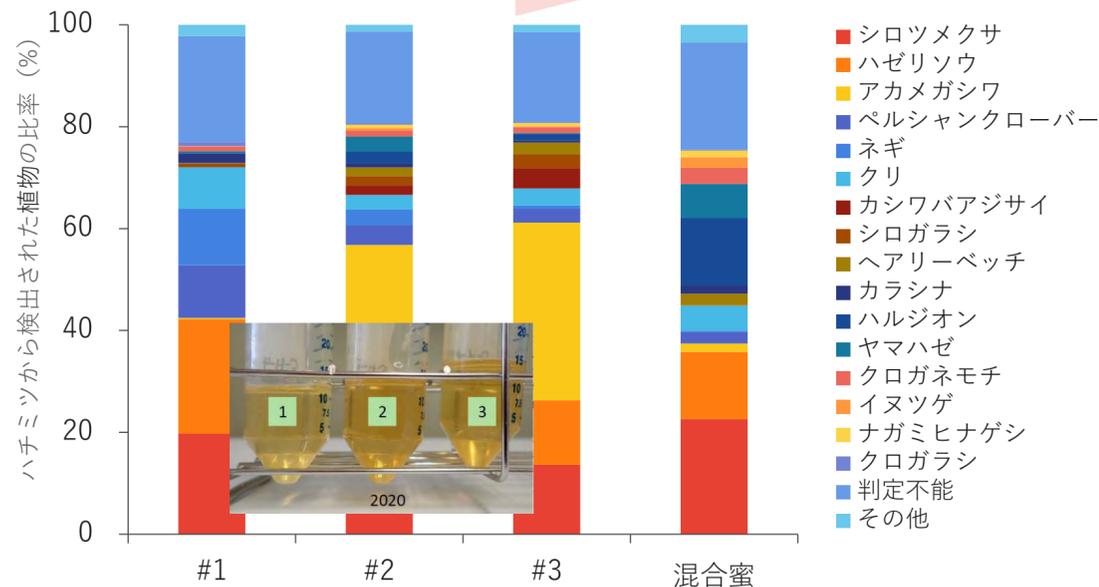


②ハチミツ中の花粉のDNA解析による蜜源植物特定手法の構築

1) ハチミツ採取条件の検討 (群ごと or 混合)



サンプルによってバラつきが存在



2) ハチミツから抽出可能なゲノム量の比較

サンプルの種類	採蜜年	抽出DNA量 (mg/mL)
市販ハチミツ (春百花蜜)	2021	3.62
		3.79
		3.81
市販ハチミツ (アカシア)	2020	0.97
		1.08
		2.46
	2021	18
		1.89
		31
市販ハチミツ (ソバ)	2020	0.471
		0.31
		0.41
	2021	2.36
		3.1

サンプルの種類	採蜜年	抽出DNA量 (mg/mL)
研究圃場採取 (ハチミツ)	2021	7.7
		23
		6.1
	2021 (混合)	9.1
		2.91
		0.903
研究圃場採取 (花粉団子)	2021	1.14
		98
		113
		107
		93

ハチミツの種類により抽出可能なゲノムDNA量が異なる (経年による低下やソバ蜜は少ない傾向)

3) まとめ及び今後の検討課題

- メタゲノム解析は訪花植物 (蜜源・花粉源) の調査に利用可能
- 混合した蜜でも主要な蜜源を特定可
- 採取から時間がたつと抽出できるゲノムDNA量が低下するため、採蜜後すぐに分析する必要

検討事項

ミツバチのダンス解析と蜜源解析の組み合わせにより、蜜蜂が放花している採蜜地域の絞り込みが可能か検証する必要